

内視鏡検査のご案内

胃がんの現状

2014年のわが国におけるがん死亡者数の報告では、胃がんの死亡者数は男性で2位、女性で3位であり、約4800人の方が胃がんで亡くなっています。

胃がんの5年生存率は65.3%ですが、早期のがんであれば99%を超えており、より早期のがんであれば十分に治療可能です。また、胃がんは自覚症状に欠けることが多く、早期発見のためには検診の役割は重要です。しかし、現在の胃がん検診受診率は、40-69歳でみると男性で45.8%、女性で33.8%であり、検診対象の半数以上の方が未受診であるのが現状です。

胃がんとピロリ菌

胃がんの原因の一つとしてヘリコバクター・ピロリ菌の持続感染が、がん発生のリスクを高めることがわかり、現在除菌療法が胃がんにかかるリスクを低くするという研究結果が集積されつつあります。ピロリ菌が胃に感染すると、8割以上の方が萎縮性胃炎となり、さらにこれを発生母地として胃がんへと進行することがわかっています。現在は萎縮性胃炎の段階で、除菌療法が保険適応となりましたが、萎縮性胃炎の診断には、内視鏡検査施行が必須となっています。

◇◇消化器内科外来診療時間◇◇

初診・再診共に 火曜日～金曜日 午前8:45～12:30
午後1:30～05:00

土曜日 午前8:45～12:30
(第2週のみ月・木～土曜日)

※ご来院の際は、前もって担当医師の休診の有無を電話で確認の上ご来院ください。

※新患の場合は、診療終了の1時間前には受付をして下さい。



医療法人元生会

愛生病院

〒078-8340 旭川市東旭川町共栄223番6

楽になった内視鏡検査

胃がん健診においては、住民健診などでは胃X線検査が中心ですが、人間ドックといった個人でうけるものでは内視鏡検査を行うことが多くなってきています。

最近の内視鏡自体も進歩し、以前は直径10mm弱の内視鏡を口から挿入する検査が主体でしたが、現在は直径が6mmを切る内視鏡が開発され、口からだけでなく、鼻から内視鏡検査をすることが出来るようになりました。開発当初は画像や視野の問題などもありましたが、最近のものはそれらも段々と改良されてきており、咽頭反射(ノドの奥に指入れると「オエッ」となるやつ)も少なく、検査中も会話が可能などメリットもあり、検査件数は増加傾向にあります。

症状がある方はもちろんですが、年齢が40代には入られた方も、どうぞ一度御相談ください。

あなたは、ご自身の胃にピロリ菌がいるかどうか、ご存知ですか？



ピロリ菌に感染していない健康な胃



ピロリ菌に感染し炎症を起こしている胃

写真提供：国家公務員共済組合連合会 三宿病院



医師 斉藤 浩之

旭川医科大学 卒業

日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医

Tel: 0166-34-3838

<http://aisei-hp.jp>